

## 原著論文

## ツェンペリーの日本植物誌に記録された箱根産植物

## The Plant of Hakone Recorded in the Thunberg's Flora Japonica

勝山輝男<sup>1)</sup>・田中徳久<sup>1)</sup>・大西 亘<sup>1)</sup>Teruo KATSUYAMA<sup>1)</sup>, Norihisa TANAKA<sup>1)</sup> & Wataru OHNISHI<sup>1)</sup>

**Abstract.** The Swedish botanist Carl Peter Thunberg (1743-1828) had visited Japan in the years 1775 to 1778. He had crossed Hakone on the way from Nagasaki to Edo, Apr. 25, and May 27 in 1776, and had collected many plants in Hakone. After returning to his country, he published “Flora Japonica” in 1784 and recorded 812 species and 101 unidentified taxa in Japan with Linnean taxonomic systems. The record of the plant from Hakone of Flora Japonica is precious data when considering the history of botanical research of the dawn in Kanagawa Prefecture. Matsuura (1998) selected 64 species and 3 unidentified taxa which were materials from Hakone in the description of “Flora Japonica”, but he did not examine the specimen of Thunberg’s herbarium directly. We examined voucher specimens deposited in the Thunberg’s Herbarium of Uppsala University Museum of Evolution (UPS) in 2012, and identified 49 species from Hakone and took photos. We found one of the unidentified plant No. 75 to be *Stephanandra tanakae* Franch. & Sav. *Salix japonica* Thunb. and *Stephanandra tanakae* were not materials from Hakone in the description of Flora Japonica, but might have been collected in Hakone by Thunberg, presuming from their distribution and his itinerary in Japan. We report here about 70 species including *Salix japonica* and *Stephanandra tanakae* as plants collected by Thunberg himself in Hakone, and corrected 13 names among 67 species which Matsuura (1998) showed.

**Key words:** Thunberg, Flora Japonica, specimen, Hakone

## はじめに

Carl Peter Thunberg (1743-1828) (以下松浦 (1953) に従い“ツェンペリー”と呼称) はスウェーデンの生物学者で Carolus Linnaeus (1707-1778) の弟子である。長崎出島の商館付き医師として 1775 年 (安永 4 年) 8 月に来日し、1778 年 12 月に長崎から帰国の途についた。来日の翌年、1776 年に商館長に随行して江戸参府に参加し、往路は 4 月 25 日に、復路は 5 月 27 日に箱根を越え、箱

根産の植物を多数採集記録している (中井, 1919; 北村, 1932)。

ツェンペリーは帰国後、学術雑誌などに日本産植物を新種として記載するとともに、1784 年には『Flora Japonica』(Thunberg, 1784; 以下 Flora Japonica と表記) をまとめ、日本産の植物 812 種と同定には至らなかった不明植物 101 分類群を報告した。また、植物図も『Iconos Plantarum Japonicarum 1-5』(Thunberg, 1794-1806) として出版している。この他、未発表の植物図が約 300 枚あり、これは 1994 年に『C. P. Thunberg’s Drawings of Japanese Plants』(Kimura and Leonov, 1994) として出版された。ツェンペリーが日本で

<sup>1)</sup> 神奈川県立生命の星・地球博物館  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 449  
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History  
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan  
勝山輝男: katsu@nh.kanagawa-museum.jp

採集した標本の大半は、現在、ウプサラ大学博物館 (Uppsala University Museum of Evolution, UPS, Uppsala, Sweden) のツェンベリーコレクションとして所蔵されている。

松浦 (1998) はツェンベリーの Flora Japonica で産地が箱根と明記されているもの 64 種と、巻末の不明植物で箱根産と記されているもの 3 分類群の計 67 分類群を抽出し、ツェンベリーが採用した学名、現在使われている学名と和名を記述した。しかし、松浦 (1998) は『Iconos Plantarum Japonicarum 1-5』や『C. P. Thunberg's Drawings of Japanese Plants』の植物図と Flora Japonica の記述中の和名から現在の学名や和名を決めており、ツェンベリーコレクションなどの標本は直接検討していない。

Flora Japonica は現在用いられている学名の体系を用い、標本に基づいて作られた最初の日本植物誌である。しかも、産地として箱根が記されている植物も多く、神奈川県植物研究史においても重要な資料である。筆者らは機会があり、ウプサラ大学博物館のツェンベリーコレクション中の箱根産植物標本を直接検討することができた。ツェンベリーコレクション中の箱根産植物標本の画像や標本調査で得られた知見を含め、Flora Japonica 中の箱根産植物を再検討した。

### 材料と方法

2012 年 6 月にウプサラ大学博物館を訪ね、Flora Japonica に箱根産と明記された 64 種、Flora Japonica には箱根産とは記されていないが、分布から考えて箱根産と思われるシバヤナギ *Salix japonica* Thunb. の計 65 種を対象種として、ツェンベリーコレクションを調査し写真撮影を行った。また、巻末の不明植物については、箱根産が明記されている 4 分類群 (No. 35, No. 38, No. 50, No. 94) のほか、分布上から箱根産が推定できるものが含まれている可能性があるため、収蔵されていたすべての標本に当たった。

### 結果と考察

ツェンベリーコレクションに残されている Flora Japonica の証拠標本はシートの裏面の端に“e Japonia C. P. Thunberg”と記されているだけで、日本国内の地名は書かれていなかった。したがって、箱根で採集されたものかどうかは Flora Japonica の記述、またはツェンベリーの旅程とその植物の分布から判断しなければならない。

調査対象とした 65 種のうち、46 種の標本を確認したが、19 種については該当する標本を見つることができなかった。標本を確認できた 46 種

のうち、植物図がなく、これまで直接に種名を確認することができなかったものでは、*Iris sibirica* はアヤメ *Iris sanguinea* Hornem、*Scirpus lacustris* はフトイ *Schoenoplectus tabernaemontani* (C. C. Gmel.) Palla、*Caesalpinia crista* はジャケツイバラ *C. decapetala* (Roth) Alston、*Oxalis acetosella* はミヤマカタバミ *O. griffithii* Edgew. & Hook. f.、*Spiraea aruncus* はアカショウマ *Astilbe thunbergii* (Siebold & Zucc.) Miq.、*Arum dracontium* はウラシマソウ *Arisaema thunbergii* Blume subsp. *urashima* (H. Hara) H. Ohashi & J. Murata、*Ajuga orientalis* はツルカコソウ *A. shikotanensis* Miyabe & Tatew. であることが確認された。

Flora Japonica の巻末には不明植物 No. 1 ~ No. 101 が記録されている。この標本はツェンベリーコレクションの最後に同じ番号で収納されているが、中井 (1919) が書いているように、すべてが揃っているわけではなかった。箱根産と考えられる不明植物では、No. 35 がケハリギリ *Kalopanax septemlobus* (Thunb.) Koidz. var. *magnificus* (Zabel) Hand. -Mazz.、No. 50 がドクウツギ *Coriaria Japonica* A. Gray であった。また、Flora Japonica に産地の記録はないが、No. 75 はカナウツギ *Stephanandra tanakae* Franch. & Sav. であることが判明した。

Flora Japonica の記述中には箱根産とは書かれてはいないが、シバヤナギ *Salix japonica* Thunb. とカナウツギ (不明植物 No. 75) はフォッサ・マグナ要素の植物で、ツェンベリーの旅程から考え、箱根以外で採集されたとは考えにくい。

以下に Flora Japonica に箱根産と記されているものと、箱根産とは記されていないが、分布上箱根産とみなせるもの (シバヤナギとカナウツギ) を含めて、70 分類群を箱根産植物としてとりあげ、ウプサラ大学のツェンベリーコレクションで標本を確認できた 49 種 (不明植物 3 種を含む) はその写真を示し、標本を確認できなかったもの 21 種 (不明植物 2 種を含む) についても、出来る限り文献にあたり、妥当な種名を推定した。その結果、松浦 (1998) の示した Flora Japonica 中の箱根産植物 67 種のうち、13 種について現在使われている和名・学名を改めた。

リストは Flora Japonica の配列に従い、Flora Japonica で採用された学名、その掲載ページ、Flora Japonica 中の挿図番号 (以下、tab. に続けて示す)、『Iconos Plantarum Japonicarum』の巻と掲載ページ、『C. P. Thunberg's Drawings of Japanese Plants』で扱われた図版の番号 (以下、図版 No. に続けて示す)、シート上の標本番号 (以下、標本 No. に続けて示す)、標本を確認できなかったも

のはその旨、現在使われている和名と学名、Flora Japonica の記述のうち、和名、産地、花期、特徴など、参考となると思われるところをラテン語のまま抜粋したもの（“ ” 内に記した）、コメントの順で記述した。

**1. *Salix japonica* Thunb., Fl. Jap.: 24 (1784). Icon.**

IV : 1. 標本 No. 23045 (Fig. 1).

シバヤナギ

“Crescit iuxta Nagasaki et alibi”

標本 No. 23045 は雌株。Flora Japonica の記述中には長崎とあるが、シバヤナギの分布は関東南部～東海地方に限られ、ツェンペリーの旅程上では箱根周辺で標本が採集されたと考えられる。

**2. *Serapias falcata* Thunb., Fl. Jap.: 28 (1784). Icon.**

I : 5. 標本 No. 21323 (Fig. 2).

キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

“Iaponice: Kin Ran.; Crescit in Monte Fakona, florens Aprili.”

箱根が基準産地だと考えられる。

**3. *Osyris japonica* Thunb., Fl. Jap.: 31 (1784). Icon.**

III : 1. 標本 No. 23282 (Fig. 3).

ハナイカダ *Helwingia japonica* (Thunb.) F. Dietr.

“Iaponice: Fanna Ikada, it Mamaku.; Crescit in montibun Fakoniae.”

箱根が基準産地だと考えられる。ツェンペリーは日本紀行（山田, 1928）の中でも箱根付近の植物について記し、本種について「奇妙な灌木で、葉の真中に小さな花がある」と書いている。

**4. *Valeriana officinalis* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 31 (1784). 該当標本なし.**

種名は未確定

“Iaponice: Ominamisi, it Sijro banna. Kaempf. Am. ex Fasc. V. p.685 (885 の誤植).; Crescit in montibus Fakoniae, iuxta Nagasaki, alibi.; Floret Maio, Iunio.”

ハルオミナエシ *V. fauriei* Briq. の可能性が高い。ツェンペリーの当てた *V. officinalis* L. はヨーロッパのセイヨウカノコソウで、日本のハルオミナエシに似ている。しかし、現在の箱根にハルオミナエシは分布しない。Franchet & Savatier (1875) もハルオミナエシを *V. officinalis* で記録し、横須賀 (Savatier-579) の標本を引用している。今より草原環境が多かったと考えられる当時、ハルオミナエシが箱根に生育していた可能性も否定できない。松浦 (1998) はツェンペリーの記した和名を重視してオミナエシ *Patrinia scabiosifolia* Fisch. ex

Trevir. としたが、Flora Japonica には花期は5～6月 “Floret Maio, Iunio” と記してあり、やはりオミナエシではないと考えられる。

**5. *Iris sibirica* (non L.) Thunb. Fl. Jap.: 33 (1784).**

標本 No. 1164 (Fig. 4), 1165 (Fig. 5), 1166 (Fig. 6), 1167 (Fig. 7), 1168 (Fig. 8).

アヤメ *Iris sanguinea* Hornem.

“Iaponice: Barin. Farin, vulgo Buran, it. Refo Kjosa. Kaki Tsubatta. Kaempf. Am. exot. Fasc. V. p.872.; Crescit in regionibus Fakoniae.; Floret Aprili.”

ツェンペリーは和名をカキツバタと書いているが、ツェンペリーコレクションには *I. sibirica* と同定された日本産標本が5点残されているが、いずれもアヤメであった。小泉 (1933a) もアヤメとし、標本 No. 1164 と No. 1166 の2点には小泉源一の “*Iris sanguinea* Hornem.” の同定ラベルが貼られている。また、Flora Japonica 出版後にツェンペリーは *I. orientalis* Thunb. in Trans. Linn. Soc. 2: 327 (1794) を記載した。しかし、これには *I. orientalis* Mill. (1768) の先行名があったので、*I. extremorientalis* Koidz. in Bot. Mag. Tokyo 40: 330 (1926) の新名が作られた。ツェンペリーコレクションの標本 No. 1144 には小泉による “*Iris extremorientalis* Koidz.” の同定ラベルがつけられている。この標本は種としてはアヤメと思われるが、花がやや小さく、品種レベルの違いがあるように思われる。

**6. *Scirpus lacustris* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 37 (1784). 標本 No. 1598 (Fig. 9).**

フトイ *Schoenoplectus tabernaemontani* (C. C. Gmel.) Palla

“Iaponice: Futo Ii, it Sukumo.; Crescit in aquis, in regionibus Fakoniae.”

松浦 (1998) も Flora Japonica の和名 “Futo Ii” からフトイと考えた。標本 No. 1598 は貧弱なものであるが、フトイであった。

**7. *Elaeagnus umbellata* Thunb., Fl. Jap.: 66, tab. 14 (1784). 図版 No. 36. 標本 No. 3725 (Fig. 10).**

アキグミ

“Iaponice: Hawa Siro Gomi, vel Nawa Siro Gomi.; Crescit in monte Fakona.; Floret Aprili, Maio.”

箱根が基準産地だと考えられる。ツェンペリーは本種に「ナワシログミ」と書き、*E. pungens* Thunb. (ナワシログミ) の項で「アキグミ」と書き、和名を逆に記録している。

**8. *Myosotis apula* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 81 (1784). 該当標本なし.**

種名は未確定

“feminibus nudis, foliis hispidis, racemis foliosis; Crescit in montibus Fakoniae.; Floret Aprili.”

松浦 (1998) も種名は決められず、*Myosotis* sp. とした。ツェンペリーの当てた *M. apula* L. は地中海沿岸の植物で日本には分布しない。箱根に産するもので、ワスレナグサ属に似ていて総状花序に葉状の苞が多いものに、ヤマルリソウとハナイバナがある。ヤマルリソウについては *Flora Japonica* の同じページの 2 種後ろに *Cynoglossum japonicum* Thunb. (標本 No. 3997) として新種記載されているが、この記述中に産地は記録されていない。なお、ヤマルリソウは現在 *Omphalodes japonica* (Thunb.) Maxim. に組替えられている。

**9. *Weigela japonica* Thunb., Kongl. Svensk. Vet.-Acad. Handl. Stockh. ser. 2, 1: 137 & 141, t. 5 (1780); Fl. Jap.: 90, tab. 16 (1784). 標本 No. 4362 (Fig. 11).**

ツクシヤブウツギ

“Tapoinice: Korai Utsugi, it Sima Utsugi et Nippon Utsugi. Kaempf. Am. exot. Fasc. V. 855.; Crescit prope Iedo et in regionibus Fakoniae.”

松浦 (1998) は *Weigela japonica* をハコネウツギとしたが、残されている標本も *Flora Japonica* の tab. 16 も九州に分布し、箱根にはないツクシヤブウツギである。*Flora Japonica* の産地の箱根は誤りであろう。これとは別に、ツェンペリーの持ち帰ったハコネウツギの標本 No. 4361 とそれを描いた図版 No. 47 があり、それをもとにハコネウツギ *W. coraeensis* Thunb. in Trans. Linn. Soc. Lond. 2: 304 (1794) が記載された。

**10. *Bumalda trifolia* Thunb., Nov. Gen. Pl. 3: 63 (1783); Fl. Jap.: 114 (1784). 図版 No. 82. 標本 No. 6669 (Fig. 12).**

ミツバウツギ *Staphylea bumalda* DC.

“Crescit in montibus Fakoniae.; Floret Maio, Iunio.”

ツェンペリーは同時に新属 *Bumalda* Thunb., Nov. Gen. Pl. 3: 62 (1783) を記載した。その後、Candle (1825) により *Bumalda* 属は *Staphylea* 属に含められたが、*Staphylea* 属には *S. trifolia* L. の先行名があったので、代置名として *S. bumalda* DC., Prodr. 2: 2 (1825) が作られた。したがって、標本 No. 6669 がミツバウツギ *S. bumalda* DC. の基準標本で、基準産地は箱根だと考えられる。

**11. *Sium decumbens* Thunb., Fl. Jap.: 118 (1784). 標本 No. 7039 (Fig. 13).**

セントウソウ *Chamaele decumbens* (Thunb.)

Makino

“Tapoinice: Iingosaku.; Crescit in insula Nipon, prope Iedo et Fakonam.; Floret Martio.”

*Flora Japonica* の産地には江戸と箱根があげられているが、この標本 No. 7039 がどちらで採集されたものかは分からない。

**12. *Viburnum dentatum* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 122 (1784). 該当標本なし.**

オオデマリ (テマリバナ) *Viburnum plicatum*

Thunb.

“Tapoinice: Fundar, vulgo Te Mariksa, aliis Kote Mawari, Kaempf. Am. ex. Fasc. V. p.854.; Crescit iuxta Fammamoto, in Fakona, alibi.”

ツェンペリーは *Flora Japonica* を出版した後に新種とみなし、オオデマリ (テマリバナ) *V. plicatum* Thunb., Trans. Linn. Soc. Lond. 2: 332 (1794) を記載した。浜松や箱根などで栽培されていたものが採集されたと思われる。

**13. *Convallaria polygonatum* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 142 (1784). 該当標本なし.**

種名は未確定

“Tapoinice: Sayoru, it. Isui et Amatokoro.; Crescit prope Iedo, in fakona alibique, locismontosis.; Foret Aprili, Maio.”

松浦 (1998) はアマドコロ *Polygonatum odoratum* (Mill.) Druce var. *pluriflorum* (Miq.) Ohwi だと考えた。なお、アマドコロの基準変種の var. *odoratum* はヨーロッパに分布する。

**14. *Convallaria multiflora* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 142 (1784). 標本 No. 8496 (Fig. 14).**

ナルコユリ *Polygonatum falcatum* A. Gray

“Tapoinice: Woosy.; Crescit in insula Nipon prope Fakonam.; Floret Maio, Iunio.”

ウブサラ大学のツェンペリーコレクションで *C. multiflora* と書かれた日本産の標本 No. 8496 は、1 シートに 3 点が貼られていて、その中央の 1 点はナルコユリ *P. falcatum* である。左右の 2 点はアマドコロ *P. odoratum* (Mill.) Druce var. *pluriflorum* (Miq.) Ohwi またはヤマアマドコロ var. *thunbergii* (Morr. & Decne) H. Hara と思われるが、葉の下面の微細な突起の有無を確認しなかったため、写真 (Fig. 14) からは判定できなかった。小泉 (1933b) は *C. multiflora* は *P. multiflorum* と *P. falcatum* の混合品と解説し、標本 No. 8496 の台紙の中央の個体

の近くに “*Polygonatum falcatum* A. Gray, (G. K.)” と書かれている。松浦 (1998) はツェンペリーの記した和名 (実際には漢名) によりナルコユリと考察した。

**15. *Hemerochallis japonica* Thunb., Fl. Jap.: 142 (1784). 標本 No. 8630 (Fig. 15).**

コバギボウシ *Hosta sieboldii* (Paxton) J. W. Ingram

“Iapoinice: Iaksan, vulgo Gibbosi, it. Sinagi Gibbosi. Kaempfer. Am. ex. Fasc. V. p.863.; Crescit in regionibus Fuji et Fakoniae, Nagasaki et alibi.”

標本 No. 8630 はコバギボウシであり、小泉源一博士による 1925 年の同定ラベル “*Hosta japonica* (Thg.) Aschers = *Aletris japonica* Thg.” が貼られている。ツェンペリーは標本 No. 8630 に基づいて、*Aletris japonica* Thunb., Nov. Acta Reg. Soc. Sci. Upsal. 3: 204, 208 (1780) を記載し、後に Flora Japonica で *Hemerochallis japonica* (Thunb.) Thunb. に組み替えた (原, 1984)。これを *Hosta* 属に組み替えたのが *Hosta japonica* (Thunb.) Aschers. in Bot. Zeit. 21: 53 (1863) であるが、この学名は *Hosta japonica* Tratt. (1812) が先行するので使用できない。

**16. *Juncus glomeratus* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 145 (1784). 該当標本なし.**

種名は未確定

“culmo nudo stricto, caoitulo laterali; Crescit in regionibus Fuji et Fakoniae. iuxta vias.; Floret Aprili, Maio.”

松浦 (1998) は、イグサ *J. decipiens* (Buchenau) Nakai またはその品種と考えている。

**17. *Lindera umbellata* Thunb., Nov. Gen. Pl. 3: 64, tab. (1783); Fl. Jap.: 145, tab. 21 (1784). 標本 No. 8796 (Fig. 16).**

クロモジ

“Iapoinice: KuroNosji, Kuro Moji. it. Kuro Ganni Motij. Kuro Nosji. Kaempfer. Am. ex. Fasc. V. p.908.; Crescit in Fakona.”

基準産地は箱根だと考えられる。ツェンペリーは日本紀行 (山田, 1928) で江戸参府の途上の植物について記しており、箱根付近の植物としてクロモジについて「歯の掃除をするブラシに使われる」と書いている。

**18. *Berberis vulgaris* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 146 (1784). 該当標本なし.**

種名は未確定

“B. foliis serratis; Iapoinice: Suo Ki, it Tori Tomara Soo.; Crescit in monte Fakona.; Floret Aprili, Maio.”

ヘビノボラズ *B. siaboldii* Miq. の可能性が高い。松浦 (1998) はツェンペリーの記した和名トリトマラズからメギ *B. thunbergii* DC. だと考えた。しかし、Flora Japonica の “*B. vulgaris*” の記載には葉は鋸歯縁とあり、一方、*B. cretica* (non L.) Thunb. (標本 No. 8780 がある) はメギ *B. thunbergii* DC. であるが、その記載には葉は全縁 “foliis integris” と正しく書かれている。したがって、“*B. vulgaris*” はメギではなくヘビノボラズ *B. siaboldii* と考えられる。ヘビノボラズは箱根に記録はないが、東海地方には産するので、江戸への道中で採集された可能性がある。

**19. *Rajania hexaphylla* Thunb., Fl. Jap.: 149 (1784). 図版 No. 115. 標本 No. 23526 (Fig. 17), 23527 (Fig. 18).**

ムベ *Stauntonia hexaphylla* (Thunb.) Decne

“Iapoinice: Akebi, it, Mbe Kadsura et Tsu So.; Crescit in regionibus Fakoniae, inter frutices.”

基準産地は箱根だと考えられる。

**20. *Vaccinium hirtum* Thunb., Fl. Jap.: 155 (1784). 図版 No. 122. 標本 No. 9229 (Fig. 19).**

コウスノキ (カクミスノキ)

“Iapoinice: KoUtsugi, et contracte Kuski, it Ko Utsugi.; Crescit in regionibus montis Fakoniae, inter Miaco et Iedo.”

*V. hirtum* Thunb. がカクミスノキであることは小泉 (1941) が報告しており、標本 No. 9229 には小泉源一博士の 1929 年の同定ラベル “*Vaccinium hirtum* Thg. カクミスノキ” が貼られている。Flora Japonica の産地の 1 つには箱根があげられているが、現在の箱根には近縁のスノキはあるがコウスノキはない。伊豆半島や富士山の西側には分布するので、当時の箱根にあった可能性も否定できないが、京都から江戸への道中で採集した可能性もある。

**21. *Acer japonicum* Thunb., Fl. Jap.: 161 (1784). Icon. II : 10. 標本 No. 24067 (Fig. 20).**

ハウチワカエデ

“Iapoinice: Momisi, it. Fanna Momisi. Momisi appellant omnes in genera Aceres.; Crescit in regionibus montium Fuji et Fakoniae.”

基準産地は富士山または箱根となるが、現在の箱根にハウチワカエデは見られない。23 の項で記したが、オニイタヤ *A. pictum* Thunb. の標本 No. 24084 は斑入りの個体で、旅館などで植栽されていたものを標本にした可能性がある。ハウチワカ

エデも紅葉が美しいために栽培されるので、栽培品から標本が作られた可能性がある。ツェンベリーは日本紀行（山田, 1928）の中でも「楓類は・・・、箱根に植えられているのみならず、各地で栽培されている」と書いている。

**22. *Acer septemlobum* Thunb., Fl. Jap.: 162 (1784).**

図版 No. 127. 標本 No. 24095 (Fig. 21).

ハリギリ *Karopanax septemlobus* (Thunb.) Koidz.  
“Crescit in Fakona.”

基準産地は箱根だと考えられる。ツェンベリーはハリギリやカクレミノなどのようなウコギ科の掌状に分裂する葉をもつものも *Acer* として記載した。標本 No. 24095 には小泉源一博士による 1925 年の同定ラベル “*Karopanax septemlobus* (Thg.) Koidz. ハリギリ” が貼られている。なお、巻末の不明植物 No. 35 も *Flora Japonica* に箱根産と記されたものであるが、これは変種のケハリギリであった。

**23. *Acer pictum* Thunb., Fl. Jap.: 162 (1784). Icon. V: 3. 標本 No. 24084 (Fig. 22).**

広義イタヤカエデ、細分すればオニイタヤ *A. pictum* Thunb. subsp. *pictum*

“Iaponice: Momisi, it Kekuan eadem: Kaempfer. Am. ex. Fasc. V. p.892.; Crescit in regionibus Fuji et Fakoniae.”

基準産地は富士または箱根となるが、標本 No. 24084 や Icon. V: 3 に描かれたものは葉に斑が入ったものなので、道中の旅館などで栽培されていたものを標本にした可能性がある。原 (1986) は *Acer pictum* はハリギリであり、イタヤカエデの学名には使えないとしたが、その後、Ohashi (1993) はこの学名がイタヤカエデに当たることを詳しく解説している。

**24. *Acer trifidum* Thunb., Fl. Jap.: 163 (1784). 図版 No. 126. 標本 No. 24098 (Fig. 23).**

カクレミノ *Dendropanax trifidus* (Thunb.) Makino ex H. Hara

“Iaponice: Kakure Mimo.; Crescit in Fakoniae regionibus.”

基準産地は箱根だと考えられる。

**25. *Quercus serrata* Murray, Syst. Veg. ed. 14: 858 (1784); Thunb., Fl. Jap.: 176 (1784). 図版 No. 269, 270. 標本 No. 22459 (Fig. 24), 22460 (Fig. 25), 22461 (Fig. 26).**

コナラ

“Iaponice: Hawa So, it. Nara no Fa.; Crescit in

regionibus Fakoniae et alibi.”

ツェンベリーが持ち帰った標本に基づいて Murray が先に発表したため、命名者がツェンベリーにはならなかった。基準産地は箱根だと考えられる。標本 No. 22459 には小泉源一博士による 1925 年の同定ラベル “*Quercus serrata* Thg. コナラ” が貼られている。

**26. *Quercus dentata* Thunb., Fl. Jap.: 177 (1784). Icon. V: 6. 標本 No. 22401 B (Fig. 27), 22402 (Fig. 28).**

カシワ

“Iaponice: Koku, vulgo Kasjuwa, Boku Soku et Sjikakas. Kaempfer. Am. exot. Fasc. V. p.816.; Crescit in regionibus Fuji et Fakoniae montium.”

基準産地は富士または箱根。

**27. *Caesalpinia crista* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 179 (1784). 標本 No. 10006 (Fig. 29).**

ジャケツイバラ *Caesalpinia decapetala* (Roth) Alston

“Iaponice: Saikatje five Saikatsi.; Crescit inter Oygawae rivtim et Fakoniae montes, inter alios frutices.; Floret Maio, Iunio.; Caulis arborescens. ... Flores terminales, racemosi, cernui, albidii.”

ツェンベリーは和名をサイカチと記録しているが、彼の当てた学名 *C. crista* はナンテンカズラで屋久島以南に分布する。松浦 (1998) も箱根に多いジャケツイバラではないかと考えた。

**28. *Chrysosplenium alternans* Thunb., Fl. Jap.: 182 (1784), non. *C. alternifolium* L. . 標本 No. 10410 (Fig. 30).**

ヤマネコノメソウ *Chrysosplenium japonicum* (Maxim.) Makino

“Iaponice: Fa Kobi.; Crescit in montium Fakoniae regionibus.”

ツェンベリーは *Flora Japonica* の見出しには *C. alternans* と書いているが、本文中でユーラシアに広く分布する *C. alternifolium* L., Sp. Pl.: 569 を引用しているため、*C. alternans* Thunb. は有効名にはならない。

**29. *Deutzia scabra* Thunb., Nov. Gen. Pl. 1: 20, t. (1781); Fl. Jap.: 185, tab. 24 (1784). 標本 No. 10937 (Fig. 31).**

マルバウツギ

“Iaponice: Ioro, vulgo Utsugi vel Iamma Utsugi. Kempfer. Am. exot. Fasc. V. p.854.; Crescit in montibus Fakoniae et adiacentibus regionibus.”

基準産地は箱根。Flora Japonica の Tab. 24 はマルバウツギとウツギ *D. crenata* Siebold & Zucc. の両方の特徴を含んだ図である。松浦 (1998) はこれをウツギとした。中井 (1919) や小泉 (1933b) はツェンベリーの持ち帰った標本にはマルバウツギとウツギの両方が含まれていたと記している。実際にウズサラ大学のツェンベリーコレクションの *D. scabra* とされた標本はマルバウツギ 1 点 (標本 No. 10937) とウツギ 2 点 (標本 No. 10938, 標本 No. 10939) がある。マルバウツギの正名が *D. scabra* とされる理由は原 (1953) に詳しく述べられている。

**30. *Sedum lineare* Thunb., Fl. Jap.: 187 (1784).** 標本 No. 11039 (Fig. 32).

オノマンネングサ

“Iaponice: Seni Ki.; Crescit in regionibus Fakoniae.”

オノマンネングサは原産地不明の栽培種。当時の箱根でも栽培されていたと思われる。標本 No. 11039 に は “Lectotype of *Sedum lineare* Thunb. Hideaki Ohba (University Tokyo), 1976 25 V” のラベルが貼られている。

**31. *Oxalis acetosella* (non. L.) Thunb., Fl. Jap.: 187 (1784).** 標本 No. 11072 (Fig. 33).

ミヤマカタバミ *Oxalis griffithii* Edgew. et Hook. f.

“Iaponice: Katabami.; Crescit in Fakoniae montis regionibus.”

標本 No. 11072 は根茎が肥大し、葉柄基部が密集して残り、ミヤマカタバミであった。松浦 (1998) も箱根に多いミヤマカタバミだと考えた。ツェンベリーが当てた *O. acetosella* はコミヤマカタバミで、丹沢の主稜線上にはあるが、箱根には産しない。

**32. *Euphorbia helioscopia* L., Sp. Pl. 1: 459 (1753); Thunb., Fl. Jap.: 197 (1784).** 標本 No. 11466 (Fig. 34).

トウダイグサ

“Iaponice: Susu Fri, it. Kansui.; Crescit iuxta vias inde, inque monte Fakona.”

松浦 (1998) もトウダイグサと考えた。標本 No. 11466 は貧弱な植物体を採集したものであるが、確かにトウダイグサであった。

**33. *Prunus incisa* Thunb., Fl. Jap.: 202 (1784).** 図版 No. 139. 標本 No. 11802 (Fig. 35).

マメザクラ

“Iaponice: Figan Sakura.; Crescit in Fakona.”

基準産地は箱根。最近ではサクラ属を分けて、

*Cerasus incisa* (Thunb.) Loisel. が用いられることも多い。標本 No. 11802 は花の時期に採集された状態の良い標本であった。

**34. *Pyrus japonica* Thunb., Fl. Jap.: 207 (1784).** 図版 No. 154. 標本 No. 11921 (Fig. 36).

クサボケ *Chaenomeles japonica* (Thunb.) Lindl. ex Spach.

“Iaponice: Atfuma Kaido, it. Buke et Ki Boke. Buke. kaempf. Am. ex. Fasc. V. P. 844.; Crescit in monte Fakona.”

箱根が基準産地だと考えられる。

**35. *Spiraea aruncus* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 211 (1784).** 標本 No. 12063 (Fig. 37).

アカショウマ *Astilbe thunbergii* (Siebold & Zucc.) Miq.

“Crescit in monibus Fakoniae eiusque regionibus.”

標本 No. 12063 には小泉源一博士による同定ラベル “*Astilbe thunbergii* (S. Z.) Miq.” が貼られている。ツェンベリーの図譜や標本を検討したマキシモヴィッチのノート (Zabinkova, 1994) でもアカショウマ *A. thunbergii* と同定している。Juel (1918) はアワモリショウマ *A. japonica* (C. Morren & Decne.) A. Gray、松浦 (1998) はヤマブキショウマ *Aruncus dioicus* (Walter) Fernald とした。

**36. *Spiraea incisa* Thunb., Fl. Jap.: 213 (1784).** 図版 No. 148. 標本 No. 12079 (Fig. 38).

コゴメウツギ *Stephanandra incisa* (Thunb.) Zabel

“Crescit in Fakona monte eiusque regionibus”

基準産地は箱根だと考えられる。

**37. *Potentilla verna* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 219 (1784).** 該当標本なし.

種名は未確定

“foliis radicalibus quinatis acute ferratis retusis, caulinis ternatis, caule declinato.; Crescit in montibus Fakoniae et alibi”

オヘビイチゴ *P. anemonifolia* Lehm. の可能性が高い。松浦 (1998) はキジムシロ *P. fragarioides* L. と考えたが、Flora Japonica には根生葉は 5 小葉とあり、ツェンベリーがヨーロッパの *P. verna* L. (根生葉は 5 小葉) に当てたことも含めて、オヘビイチゴを示していると思われる。

**38. *Corchorus hirtus* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 228 (1784).** 図版 No. 168. 標本 No. 12741 (Fig. 39).

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino

“Iaponice: Keaki, it Moku Ieno Ki.; Crescit hinc inde, prope Nagasaki, in Fakona, alibi.”

ツェンベリーは後に *Corchorus hirtus* を改め、新種として *C. serratus* Thunb. in Trans Linn. Soc. 2: 335 (1794) を記載した (田中, 1925)。標本 No. 12741 や図版 No. 168 には *C. serratus* の種名がつけられている。*C. serratus* Thunb. の基準標本は標本 No. 12741 となるが、Flora Japonica の産地には長崎と箱根があげられており、どちらで採集された標本かは不明である。

**39. *Arum dracontium* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 233 (1784). 標本: 21606 (Fig. 40).**

ウラシマソウ *Arisaema thunbergii* Blume subsp. *urashima* (H. Hara) H. Ohashi & J. Murata

“Iapoinice: Konjaku, it. Kusako, vulgo, etiam konjaks et Konjaksdama. Kaempf. Amoen. ex Fasc. V. p.786.; Crescit in montibus inter arbores, in regionibus montium Fuji, Fakoniae et alibi”

ツェンベリーの日本紀行 (山田, 1928) には「所々で数種のサトイモ科植物が栽培されているのを見た」とあり、その一つとして *Arum dracontium* をあげている。松浦 (1998) も箱根山中に自生するウラシマソウと考えた。標本 No. 21606 には “*Arisaema thunbergii* Blume, determin Schott” の同定ラベルが貼られている。

**40. *Thalictrum flavum* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 241 (1784). 該当標本なし.**

アキカラマツ *Thalictrum minus* L. var. *hypoleucum* (Siebold & Zucc.) Miq.

“Iaponice: Karamatsuru, it Inu Seri, aliis Kramatso; Crescit iuxta Iedo, un Fakonia copiose, in Nagasaki montibus alibique vulgaris.; Floret Iunio, Iunio Augsto.”

アキカラマツの異名 *T. thunbergii* DC., Syst. Nat. 1: 183 (1817) は Flora Japonica の “*T. flavum*” をもとに記載されたものである (Candle, 1823)。小泉 (1933b) も Thunberg’s Herbarium から Prof. D. D. David Royen に渡った標本のリスト中でアキカラマツの和名を付している。松浦 (1998) はツェンベリーの記した和名からカラマツソウ *T. aquilegifolium* L. だと推定したが、箱根にカラマツソウの確かな記録はない。

**41. *Ajuga orientalis* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 243 (1784). 標本 No. 13244 (Fig. 41).**

ツルカコソウ *Ajuga shikotanensis* Miyabe & Tatew.  
“erecta floribus refupinatis. Iaponice: Kakuso,

it. Daru Magiks, et Kamabuta.; Crescit in Insula Nipon, iuxta Fakonam.; Floret Aprili.; Caulis erectus, tetragonous,”

原 (1948-1954) もツルカコソウとした。標本 No. 13244 には “*Ajuga glabrescens* Makino excl. Syn. det. T. Nakai” の同定ラベルがついている。*Ajuga glabrescens* はツルカコソウのシノニムにされている (原, 1948-1954)。松浦 (1998) はツェンベリーの記した和名中にカマブタがあることからキランソウと考察した。Flora Japonica の次種には新種として *A. decumbent* Thunb. (キランソウ) があり、標本 No. 13236 が残されている。

**42. *Lamium garganicum* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 246 (1784). 該当標本なし.**

種名は未確定

“Iaponice: Sokutan, Odoriko So, it Eirakusa et Sitsisu So. Sitsisusoo altera Kaempf. Amoen. exot. Fascic. V. p.886.; Crescit in regionibus montium Fuji, Fakoniae et prope Iedo.”

小泉 (1933b) は Thunberg’s Herbarium から Prof. D. D. David Royen に渡った標本のリスト中でオドリコソウ *L. album* L. var. *barbatum* (Siebold & Zucc.) Franch. & Sav. の和名を付している。原 (1948-1954) や松浦 (1998) もオドリコソウだと考えた。しかし、ツェンベリーの図譜や標本を検討したマキシモヴィッチのノート (Zabinkova, 1994) では *L. purpureum* (non. L.) Thunb. とともにホトケノザ *L. amplexicaule* L. と同定され、一致していない。

**43. *Thlaspi arvense* L., Sp. Pl. 2: 646 (1753); Thunb., Fl. Jap.: 259 (1784). 該当標本なし.**

グンバイナズナ

“Iaponice: Gunbai Nassuna.; Crescit prope vias in regionibus Fakoniae.”

ヨーロッパ原産で古くに帰化したといわれる植物だが、ツェンベリーの時代にすでに帰化していたことになる。

**44. *Cupressus pendula* Thunb., Fl. Jap.: 265 (1784). 図版 No. 274. 標本 No. 22566 (Fig. 42).**

イトヒバ *Thuja orientalis* L. cv. *flagelliformis*

“Iapoinice: Ito Sugi.; Fi Moro. Kaempf. Am. ex. Fsc. V. p.883.; Crescit in montibus Fakoniae, ubi femel inveni, non vero florentem.”

イトヒバはコノテガシワの栽培品種。松浦 (1998) が当てたカシ米尔イトスギは *C. pendula* (non. Thunb.) Griff. nom. illeg. で、ツェンベリーのものとは異なるものである。

**45. *Thuja orientalis* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 266 (1784). 標本 No. 22558 (Fig. 43).**

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold & Zucc.) Siebold & Zucc. ex Endl. とサワラ *C. pisifera* (Siebold & Zucc.) Siebold & Zucc. ex Endl. の混合物

“Iapoinice: Konote Gassiwa, it. Fi no Ki.; Fi no Ki altera. Kaempf. Amoen. exot. Fasc. V. p.884.; Crescit in regionibus Fuji, in monte Fakona copiose.”

小泉 (1933b) はツェンベリーコレクションの標本を検して、ヒノキとサワラの両方が含まれていたことを報告している。標本 No. 22558 は 1 枚のシートにヒノキ、右にサワラが貼られている。また、同じ内容の同定ラベル (det. H. Hara, 1976) が貼られている。

**46. *Thuja dolabrata* Thunb. ex L. f., Suppl. Pl.: 420 (1782); Fl. Jap.: 266 (1784). 図版 No. 272. 標本 No. 22555 (Fig. 44).**

アスナロ *Thujopsis dolabrata* (Thunb. ex L. f.) Siebold & Zucc.

“Iapoinice: Sawaragi, it Asnaro vel Assuraro, Kwai, Fi no Ki et Ibuki.; Kwai, vulgo Fi no Ki, et Ibuki, Kaempf. Am. ex. Fasc. V. p.884.; Crescit in regionibus Oygawac et Fakoniae, inter Miaco et Iedo.”

Flora Japonica では産地の 1 つとして箱根があげられている。標本 No. 22555 はシートの裏には “e Japonia C. P. Thunberg” と書かれていなかったが、アスナロの分布から日本で採集されたものと考えた。

**47. *Dryandra cordata* Thunb., Nov. Gen. Pl. 3: 60 (1783); Fl. Jap.: 267, tab. 27 (1784). 標本 No. 23807 (Fig. 45), 23808 (Fig. 46).**

アブラギリ *Aleurites cordatus* (Thunb.) R. Br. ex Steud.

“Iaponice: Dodieku, it Abrasin.; Crescit in insula Nipon, in regionibus Fakoniae et alibi.”

Flora Japonica には国内の具体的な産地として箱根があげられており、基準産地は箱根だと考えられる。

**48. *Pinus strobus* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 275 (1784). 該当標本なし.**

チョウセンゴヨウ *Pinus koraiensis* Siebold. & Zucc.

“Crescit in montibus Fakoniae”

チョウセンゴヨウ *P. koraiensis* Siebold. & Zucc., Fl. Jap. 2: 28, t. 116 (1842) の記載にあたって Flora Japonica の “*Pinus strobus*” が引用された (Siebold *et al.*, 1870)。また、Juel (1918) も *P. strobus*

Thunb. をチョウセンゴヨウ *P. koraiensis* としている。チョウセンゴヨウは箱根には自生しないが、栽培していたものが採集された可能性はある。松浦 (1998) は箱根に五葉の松が自生しないことから、クロマツ *P. thunbergii* Pael. である可能性を指摘した。しかし、シーボルト (Siebold *et al.*, 1870) はゴヨウマツ *P. parviflora* Siebold & Zucc. の記載のノートで箱根山中の北東斜面で大きなゴヨウマツを見たと言っている。ツェンベリーは Flora Japonica の *P. cembra* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 274 (1784) で、和名を “Gojo Maats” と書き、産地は江戸と記している。標本 No. 22525 は *P. cembra* で、“*Pinus parviflora* Sieb. & Zucc. det. H. O. Juel, 1918” の同定ラベルが貼られており、これはゴヨウマツであった。

**49. *Pinus larix* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 275 (1784). 該当標本なし.**

カラマツ *Larix kaempferi* (Lamb.) Carrière

“Iapoinice: Seosi, vulgo Kara Maats, Kara maats nomi. Kaempf. Am. ex. Fasc. V. p.883.; Crescit in montibus Fakoniae.”

ツェンベリーだけでなく、シーボルトも箱根山中を記し (Siebold *et al.*, 1870)、当時の箱根にカラマツの自生があったことを示唆している。現在の箱根にカラマツは自生しないが、鷹巣山にカラマツの植林がある。

**50. *Polygala vulgaris* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 277 (1784) 該当標本なし.**

ヒメハギ *Polygala japonica* Houtt.

“Iaponice: Fime Fagi, it. Onsi.; Crescit iuxta, in Fakona alibique locis montosis.”

ツェンベリーが日本で採集した標本の一部が Houttuyn に渡り、新種 *P. japonica* Houtt., Nat. Hist. deel 2, X, 89. t. 62 (1779) が記載された (中井, 1919)。この経緯から考えると、基準産地は箱根だと推察される。

**51. *Picris japonica* Thunb., Fl. Jap.: 299 (1784). 図版 No. 252. 標本 No. 18007 (Fig. 47).**

コウゾリナ

“Iaponice: Kosorinna, it. Makajasi.; Crescit in Fakoniae montibus.”

基準産地は箱根だと考えられる。ツェンベリーが後に記載した *P. flexuosa* Thunb. in Trans. Linn. Soc. London 2: 340 (1794) もコウゾリナで、『C. P. Thunberg's Drawings of Japanese Plants』(Kimura and Leonov, 1994) の図版 No. 253 がある。

52. *Serratula tinctoria* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 304 (1784). 該当標本なし.

種名は未確定

“Crescit in montibus Nagasaki, Kosido, Fakoniae, aliisque.”

松浦 (1998) は『C. P. Thunberg's Drawings of Japanese Plants』(Kimura and Leonov, 1994) の図版 No. 227 の *Se. japonica* Thunb. が箱根産で、キツネアザミであると考察した。Flora Japonica の“*Se. tinctoria*” がキツネアザミ *Hemistepta lyrata* Bunge の可能性はあるが、*Se. japonica* Thunb. (標本 No. 18649) は九州に産するヒナヒゴタイ *Saussurea japonica* (Thunb.) DC. であった。

53. *Carduus eriophorus* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 305 (1784). 該当標本なし.

ノアザミ *Cirsium japonicum* Fisch. ex DC.

“Iaponice: Kamuro Asami.; Crescit iuxta Fakoniam.”

ツェンベリーが箱根で採集し、“*Ca. eriophorus*” と同定した標本を検討して、*Ci. japonicum* Fisch. ex DC., Prodr. 6: 640 (1837) が記載された (Candolle, 1837)。したがって、ノアザミの基準産地は箱根だと考えられる。松浦 (1998) は Flora Japonica の和名 “Kamuro Asami” からヒレアザミ *Ca. crispus* L. だと考えた。

54. *Perdicium tomentosum* Thunb., Fl. Jap.: 319 (1784). 図版 No. 232. 標本 No. 20030 (Fig. 48).

センボンヤリ *Leibnitzia anandria* (L.) Turcz.

“Iaponice: Fitosai.; Crescit hinc inde in insula Nipon, et in Fakonia.”

松浦 (1998) は、図版 No. 232 に開花したものが描かれていることから、ツェンベリーが箱根を訪れた時に開花中であったことを疑問として、他所の標本である可能性を述べている。しかし、センボンヤリが開花する時期は箱根では 4 ~ 5 月であり、矛盾しない。

55. *Osmunda japonica* Thunb., Nova Acta Regiae Soc. Sci. Upsal. 2: 209 (1780); Fl. Jap.: 330 (1784). 図版 No. 279. 標本 No. 25199 (Fig. 49), 25200 (Fig. 50).

ゼンマイ

“Iaponice: Dsjemmai, ... Kaempfer. Am. ex Fasc. V. p.891.; Crescit iuxta Nagasaki, in montibus Fakoniae, alibi.”

基準産地は長崎または箱根。標本 No. 25199 は栄養葉の標本、標本 No. 25200 は孢子葉 2 枚と栄養葉 1 枚が貼られた標本で、こちらに “Lectotype

of *Osmunda japonica* Thunb. T. Nakaike Oct. 24, 1978” のラベルが貼られている。

56. *Osmunda lancea* Thunb., Fl. Jap.: 330 (1784). 図版 No. 278. 標本 No. 25201 (Fig. 51).

ヤシヤゼンマイ

“Crescit in insula Nipon, in regionibus Fakoniae.”

基準産地は箱根と考えられる。標本 No. 25201 には “Lectotype of *Osmunda lancea* Thunb. T. Nakaike, Oct. 24, 1978” のラベルが貼られている。

57. *Acrostichum hastatum* Thunb., Fl. Jap.: 331, tab. 34 (1784). 図版 No. 290. 該当標本なし.

イワオモダカ *Pyrrosia hastata* (Thunb.) Ching

“Iaponice: Ftotsba.; Crescit in nemoribus Fuji et Fakoniae.”

基準産地は富士または箱根。ツェンベリーの日本紀行 (山田, 1928) では帰路の箱根越えのところで、セッコクを吊るしたものや、イワオモダカの鉢植が栽培されていたことを記している。Flora Japonica の産地はこれを記録した可能性がある。ツェンベリーコレクションに該当する標本はなかったが、Flora Japonica の tab. 34 や図版 No. 290 よりイワオモダカであると分かる。

58. *Pteris aquilina* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 332 (1784). 標本 No. 24880 (Fig. 52).

ワラビ *Pteridium aquilinum* (L.) Kuhn ssp. *japonicum* (Nakai) A. & D. Love

“Iaponice: Kets vulgo Warabi. Kaempfer. Am. ex Fasc. V. p.912.; Crescit in sylvis montium Kosido, Nagasaki, Fakoniae et alibi”

基本変種の var. *aquilinum* はヨーロッパに分布する。

59. *Asplenium trichomanes* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 334 (1784). 図版 No. 295. 標本 No. 24807 (Fig. 53), 24808 (Fig. 54).

トラノオシダ *Asplenium incisum* Thunb.

“Iaponice: Kusakuso, it Fakonakso et Fakona Ksa, sive Fakona Kusa.; Fakona Kusa. Kaempfer. Am. ex Fasc. V. p. 890.; Crescit iuxta Nagasaki, in insula Nipon, montibus Fakoniae et alibi.”

Flora Japonica の記述にはハコネグサとあるがトラノオシダである。Flora Japonica 出版後に *A. incisum* Thunb., Trans. Linn. Soc. London 2: 342 (1794) として記載された。標本は No. 24807 と No. 24808 の 2 点があり、No. 24807 には “Lectotype of *Asplenium incisum* Thunb. det. T. Nakaike, Oct. 24 1978” のラベルがつけられている。

**60. *Polypodium lacerum* Thunb., Fl. Jap.: 337 (1784). 図版 No. 286. 標本 No. 24671 (Fig. 55).**

クマワラビ *Dryopteris lacera* (Thunb.) Kuntze

“Iapoinice: Oni sida, it Fiko, et Sida.; Crescit in rupibus montium Kosido, Fakoniae, aliorum”

Flora Japonica の産地には複数の産地が記録されており、この標本が箱根で採集されたものかどうかは不明である。標本 No. 24671 には “Lectotype of *Polypodium lacerum* Thunb. det. T. Nakaike, Oct. 24 1978” のラベルがつけられている。

**61. *Polypodium glaucum* Thunb. ex Houtt., Nat.**

Hist. 2(14): 177 (1783); Thunb., Fl. Jap.: 338 (1784). 図版 No. 303, No. 304. 標本 No. 25144 (Fig. 56), 25145 (Fig. 57), 25146 (Fig. 58).

ウラジロ *Diplopterygium glaucum* (Thunb. ex Houtt.) Nakai

“Iapoinice: Moro Muki.; Crescit in montibus Nagasaki, Fakoniae, aliis.”

該当標本と思われるものは3点あるが、いずれも裏面に “e Japonia C. P. Thunberg” と書かれていない。しかし、標本 No. 25144 は図版 No. 303 と標本 No. 25146 は図版 No. 304 とよく一致している (Ohba, 1994)。

**62. *Adiantum caudatum* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 339 (1784). 該当標本なし.**

種名は未確定

“A. frondibus pinnatis falcotis apice caudatis. . . . Iapoinice: Fakona So”

松浦 (1998) はクジャクデンドであり、産地の箱根は誤りだと考えた。

**63. *Adiantum aethiopicum* (non L.) Thunb., Fl.**

Jap.: 339 (1784). 該当標本なし.

種名は未確定

“A. frondibus spuradecompositis: pinnis integris rotundatis crenatis, petiolis capillaribus, . . . ; Crescit cum priori in Fakoniae montibus et aliis”

松浦 (1998) は、これをハコネシダ *A. monochlamys* D. C. Eaton ではないかとしている。

**64. *Lycopodium clavatum* L., Sp. Pl. 2: 1101 (1753);**

Thunb., Fl. Jap.: 341 (1784). 図版 No. 275. 標本 No. 25320 (Fig. 59).

ヒカゲノカズラ

“Crescit in montosis Fakoniae regionibus”

松浦 (1998) もヒカゲノカズラと推定した。標本 No. 25320 のシートの右下には “*Lecopodium japonicum* Thunb.” と書かれている。Flora Japonica

の次の種の *L. japonicum* の産地には “in regionibus Iedo” とあり、標本 No. 25320 は箱根産ではない可能性がある。

**65. *Lycopodium ornithopodioides* (non L.) Thunb.,**

Fl. Jap.: 341 (1784). 該当標本なし.

種名は未確定

“Iapoinice: Mukade Ko, i. e. Millepedum muscus.; Crescit in monte Fakona”

松浦 (1998) は、タチクラマゴケ *Selaginella nipponica* Franch. & Sav. だと考えた。

**66. 不明植物 No. 35 (Fig. 60).**

ケハリギリ *Kalopanax septemlobus* (Thunb.)

Koidz. var. *magnificus* (Zabel) Hand. -Mazz.

“Hibiscus foliis subtus tomentosus; Iapoinice: Otara, it, Tara no Ki; Crescit in regionibus Fakoniae.”

葉には密毛があり、ケハリギリである。標本には “*Kalopanax pictum* (Thunb.) Nakai var. *magnificus* (Zabel) Nakai” の同定ラベルが貼られている。ハリギリは Flora Japonica の 162 ページにも *Acer septemlobum* として掲載され、箱根に産することが記されている (22 を参照)。ハリギリよりもケハリギリの方が標高の高い所に分布している。

**67. 不明植物 No. 38. 該当標本なし.**

種名は未確定

“Iapoinice: Kosikibu, it Asikurossi, i. e. Vaccae.; Crescit in regionibus montium Fuji, et Fakoniae, atque prope Iedo.; Floret incipit maio; flores autem non vidi.”

松浦 (1998) は “Asikurossi” よりカマツカ (ウシコロシ) だと考察している。

**68. 不明植物 No. 50 (Fig. 61).**

ドクウツギ *Coriaria Japonica* A. Gray

“Arbor foliis rhamni, polysperma.; Iapoinice: Nabe Kabushi, it Toneriko et Utsugi.; Crescit in regionibus montis Fakoniae.”

シートの右下端には “*Coriaria Japonica* A. Gr. (Maxim.)” と記されており、マキシモヴィッチが同定したものだと考えられる。松浦 (1998) は種名不明としている。

**69. 不明植物 No. 75 (Fig. 62).**

カナウツギ *Stephanandra tanakae* Franch. & Sav.

“Arbor carpinifolia”

標本には田中長次郎氏 (T. Tanaka) のものと思われる同定ラベルが貼られている。Flora Japonica の記述には産地は記されていないが、本種の分布

から考えて箱根で採集されたものと推定される。

# 70. 不明植物 No. 94. 該当標本なし.

種名は未確定

“*Achillaea foliis radicalibus plmimis*.; Iaponice:  
No ko Ginso; Crescit iuxta Fakonam montem.”

松浦 (1998) はノコギリソウと推定している。

## 謝 辞

ウプサラ大学博物館のツェンベリーコレクションの標本閲覧にあたっては Stefan Ekman 教授に大変お世話になった。この場を借りて御礼申し上げる。また、本研究の一部は JSPS 科研費 23501233 の助成を受けて行われた。

## 引用文献

- Candlle, A. P. de, 1823. *Prodromus Systematis Naturalis Ragni Vegetabilis*, Pars. I . 747pp. Parisiis
- Candlle, A. P. de, 1825. *Prodromus Systematis Naturalis Ragni Vegetabilis*, Pars. II . 644pp. Parisiis
- Candlle, A. P. de, 1837. *Prodromus Systematis Naturalis Ragni Vegetabilis*, Pars. VI . 644pp. Parisiis
- Franchet, A. R. and P. A. L. Savatier, 1875. *Enumeratio Plantrum in Japonia Sponte Crescentium*, vol. 1, 14+485pp. F. Savy, Paris.
- 原 寛, 1948-1954. 日本種子植物集覧 . 300+280+337pp. 岩波書店, 東京 .
- 原 寛, 1953. ツェンベリー採集日本植物標本の写真及び模写 . 日本学術会議・日本植物学会編, ツェンベリー研究資料, pp.33-69. 日本学術会議・日本植物学会, 東京 .
- 原 寛, 1984. 東亜植物註解 (14). 植物研究雑誌, **59**: 171-184.
- 原 寛, 1986. ツェンベリーが命名した日本植物の基準選定について . 植物研究雑誌, **61**: 353-363.
- Juel, H. O., 1918. *Plantae Thunbergianae*, 462pp. A.-B. Akademiska Bokhandeln, Uppsala.
- Kimura, Y. and V. P. Leonov (ed.), 1994. *C. P. Thunberg's Drawings of Japanese plants*. 7+594pp. Maruzen, Tokyo.
- 北村四郎, 1932. C. P. Thunberg 氏の日本植物採集 . 植物分類地理, **1**: 190-197.
- 小泉源一, 1933a. C. P. Thunberg 著日本植物学関係論文の解題. 植物分類地理, **2**: 291-296.
- 小泉源一, 1933b. Thunberg's Herbarium を訪ふ. 植物分類地理, **2**: 296-305.
- 小泉源一, 1941. *Vaccinium hirtum*. 植物分類地理, **10**: 220.
- 松浦 一, 1953. 序 — C. P. Thunberg 生誕 200 年記念誌に寄せて —. 日本学術会議・日本植物学会編, ツェンベリー研究資料, pp. ii-vii. 日本学術会議・日本植物学会, 東京 .
- 松浦正朗, 1998. C. P. Thunberg 著『日本植物誌』に見られる箱根産植物について . 小田原市郷土文化館研究報告, (17): 1-34.
- 中井猛之進, 1919. 「トゥンベルグ」氏ノ植物学上ノ略歴ト其著『日本植物誌』ニ就イテ . 復刻本 Thunberg, *Flora Japonica*. 巻末 1-16. 植物文献刊行会, 東京 .
- Ohba, H., 1994. A catalogue of C. P. Thunberg's drawings of Japanese plants with some notes on botany in the Yedo Period and Thunberg. Kimura, Y. and V. P. Leonov (ed.), *C. P. Thunberg's drawings of Japanese plants*. pp.407-453. Maruzen, Tokyo.
- Ohashi, H., 1993. Nomenclature of *Acer pictum* Thunb. ex Murray and its infraspecific taxa (Aceraceae). *Journal of Japanese Botany*, **68**: 315-325.
- Siebold, P. F., J. G. Zuccarini and F. A. G. Miquel, 1870. *Flora japonica sive plantae, quas in imperio japonico collegit, descripsit, ex parte in ipsis locis pingendas curavit*. 89pp. Horto Sieboldiano Acclimatationis Dicto, Lugduni Batavorum.
- 田中長三郎, 1925. 二三の THUNBERG 植物に就いて . 九州帝国大学農学部学芸雑誌, **1** (4): 191-209.
- Thunberg, C. P., 1784. *Flora Japonica*. 418pp. Lipsiae.
- Thunberg, C. P., 1794-1806. *Iconos Plantarum Japonicarum* 1-5 + 50 pls. Upsaliae.
- 山田珠樹訳, 1928. ツェンベルグ日本紀行 . 503pp. 駿南社, 東京 .
- Zabinkova, N., transcribed, 1994. Maximowicz, Herbarium Thunbergianum. Kimura, Y. and V. P. Leonov (ed.), *C. P. Thunberg's drawings of Japanese plants*, pp.455-489. Maruzen, Tokyo.





Fig. 5. 5. *Iris sibirica* (non L.) Thunb, Fl. Jap.: 33 (1784). No. 1165.



Fig. 6. 5. *Iris sibirica* (non L.) Thunb, Fl. Jap.: 33 (1784). No. 1166.



Fig. 7. 5. *Iris sibirica* (non L.) Thunb, Fl. Jap.: 33 (1784). No. 1167.



Fig. 8. 5. *Iris sibirica* (non L.) Thunb, Fl. Jap.: 33 (1784). No. 1168.



Fig. 9. 6. *Scirpus lacustris* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 37 (1784). No. 1598.



Fig. 10. 7. *Elaeagnus umbellata* Thunb., Fl. Jap.: 66, tab. 14 (1784). No. 3725



Fig. 11. 9. *Weigela japonica* Thunb., Kongl. Svensk. Vet.-Acad. Handl. Stockh. ser. 2, 1: 137 & 141, t. 5 (1780); Fl. Jap.: 90, tab. 16 (1784). No. 4362.



Fig. 12. 10. *Bumalda trifolia* Thunb., Nov. Gen. Pl. 3: 63 (1783); Fl. Jap.: 114 (1784). No. 6669.

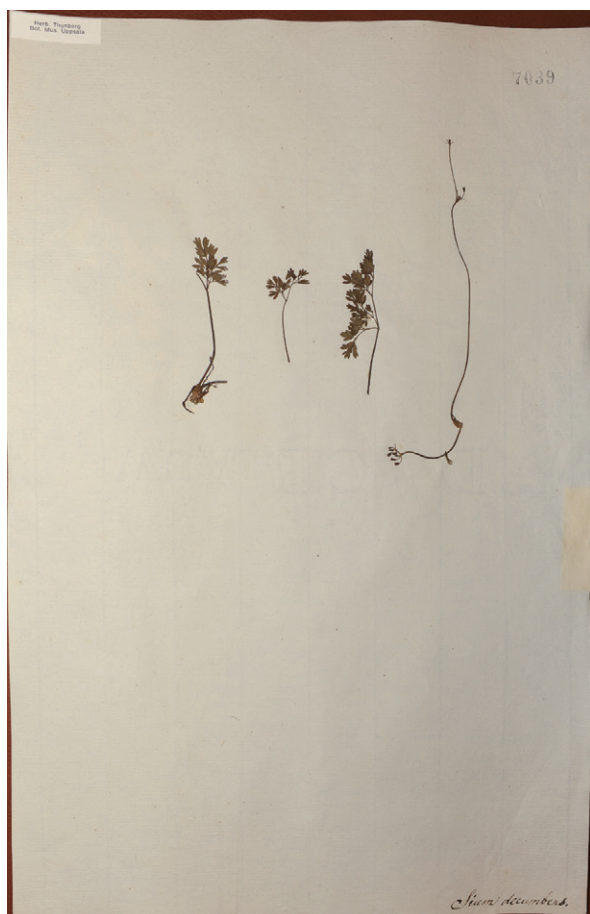


Fig. 13. 11. *Sium decumbens* Thunb., Fl. Jap.: 118 (1784). No. 7039.



Fig. 14. 14. *Convallaria multiflora* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 142 (1784). No. 8496.



Fig. 15. 15. *Hemerocallis japonica* Thunb., Fl. Jap.: 142 (1784). No. 8630.



Fig. 16. 17. *Lindera umbellata* Thunb., Nov. Gen. Pl. 3: 64, tab. (1783); Fl. Jap.: 145, tab. 21 (1784). No. 8796.



Fig. 17. 19. *Rajania hexaphylla* Thunb., Fl. Jap.: 149 (1784). No. 23526.



Fig. 18. 19. *Rajania hexaphylla* Thunb., Fl. Jap.: 149 (1784). No. 23527.



Fig. 19. 20. *Vaccinium hirtum* Thunb., Fl. Jap.: 155 (1784). No. 9229.



Fig. 20. 21. *Acer japonicum* Thunb., Fl. Jap.: 161 (1784). No. 24067.



Fig. 21. 22. *Acer septemlobum* Thunb., Fl. Jap.: 162 (1784). No. 24095.



Fig. 22. 23. *Acer pictum* Thunb., Fl. Jap.: 162 (1784). No. 24084.



Fig. 23. 24. *Acer trifidum* Thunb., Fl. Jap.: 163 (1784). No. 24098.



Fig. 24. 25. *Quercus serrata* Murray, Syst. Veg. ed. 14: 858 (1784); Thunb., Fl. Jap.: 176 (1784). No. 22459.



Fig. 25. 25. *Quercus serrata* Murray, Syst. Veg. ed. 14: 858 (1784); Thunb., Fl. Jap.: 176 (1784). No. 22460.



Fig. 26. 25. *Quercus serrata* Murray, Syst. Veg. ed. 14: 858 (1784); Thunb., Fl. Jap.: 176 (1784). No. 22461.



Fig. 27. 26. *Quercus dentata* Thunb., Fl. Jap.: 177 (1784). No. 22401 B.



Fig. 28. 26. *Quercus dentata* Thunb., Fl. Jap.: 177 (1784). No. 22402.





Fig. 33. 31. *Oxalis acetosella* (non. L.) Thunb., Fl. Jap.: 187 (1784). No. 11072.



Fig. 34. 32. *Euphorbia helioscopia* L., Sp. Pl. 1: 459 (1753); Thunb., Fl. Jap.: 197 (1784). No. 11466.



Fig. 35. 33. *Prunus incisa* Thunb., Fl. Jap.: 202 (1784). No. 11802.



Fig. 36. 34. *Pyrus japonica* Thunb., Fl. Jap.: 207 (1784). No. 11921.



Fig. 37. 35. *Spiraea aruncus* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 211 (1784). No. 12063.



Fig. 38. 36. *Spiraea incisa* Thunb., Fl. Jap.: 213 (1784). No. 12079.



Fig. 39. 38. *Corchorus hirtus* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 228 (1784). No. 12741.



Fig. 40. 39. *Arum dracontium* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 233 (1784). No. 21606.



Fig. 41. 41. *Ajuga orientalis* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 243 (1784). No. 13244.



Fig. 42. 44. *Cupressus pendula* Thunb., Fl. Jap.: 265 (1784). No. 22566.



Fig. 43. 45. *Thuja orientalis* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 266 (1784). No. 22558.



Fig. 44. 46. *Thuja dolabrata* Thunb. ex L. f., Suppl. Pl.: 420 (1782); Fl. Jap.: 266 (1784). No. 22555.



Fig. 45. 47. *Dryandra cordata* Thunb., Nov. Gen. Pl. 3: 60 (1783); Fl. Jap.: 267, tab. 27 (1784). No. 23807



Fig. 46. 47. *Dryandra cordata* Thunb., Nov. Gen. Pl. 3: 60 (1783); Fl. Jap.: 267, tab. 27 (1784). No. 23808.



Fig. 47. 51. *Picris japonica* Thunb., Fl. Jap.: 299 (1784). No. 18007.



Fig. 48. 54. *Perdicium tomentosum* Thunb., Fl. Jap.: 319 (1784). No. 20030.



Fig. 49. 55. *Osmunda japonica* Thunb., Nova Acta Regiae Soc. Sci. Upsal. 2: 209 (1780); Fl. Jap.: 330 (1784). No. 25199.



Fig. 50. 55. *Osmunda japonica* Thunb., Nova Acta Regiae Soc. Sci. Upsal. 2: 209 (1780); Fl. Jap.: 330 (1784). No. 25200.



Fig. 51. 56. *Osmunda lancea* Thunb., Fl. Jap.: 330 (1784). No. 25201.



Fig. 52. 58. *Pteris aquilina* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 332 (1784). No. 24880.

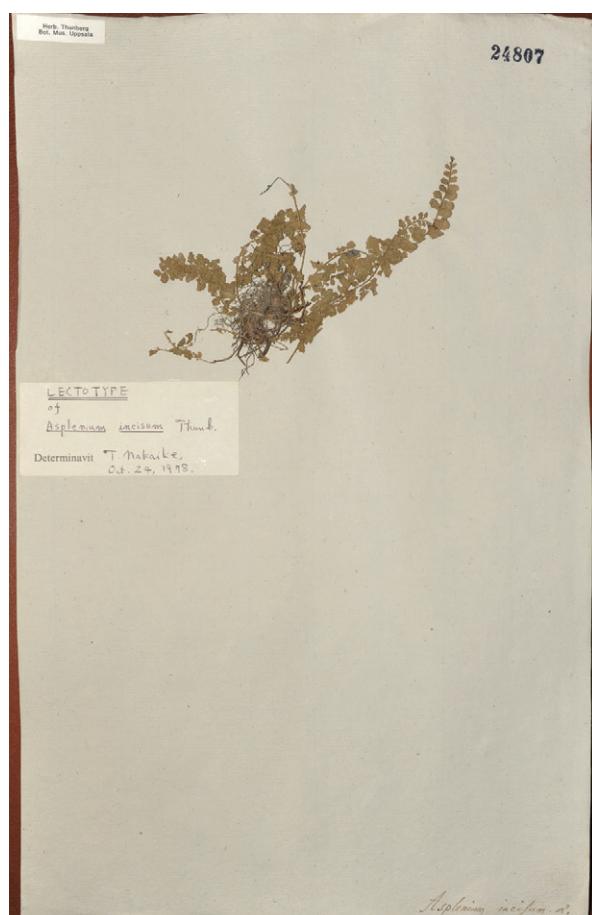


Fig. 53. 59. *Asplenium trichomanes* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 334 (1784). No. 24807.



Fig. 54. 59. *Asplenium trichomanes* (non L.) Thunb., Fl. Jap.: 334 (1784). No. 24808.



Fig. 55. 60. *Polypodium lacerum* Thunb., Fl. Jap.: 337 (1784). No. 24671.



Fig. 56. 61. *Polypodium glaucum* Thunb. ex Houtt., Nat. Hist. 2 (14): 177 (1783); Thunb., Fl. Jap.: 338 (1784). No. 25144.



Fig. 57. 61. *Polypodium glaucum* Thunb. ex Houtt., Nat. Hist. 2 (14): 177 (1783); Thunb., Fl. Jap.: 338 (1784). No. 25145.



Fig. 58. 61. *Polypodium glaucum* Thunb. ex Houtt., Nat. Hist. 2 (14): 177 (1783); Thunb., Fl. Jap.: 338 (1784). No. 25146.



Fig. 59. 64. *Lycopodium clavatum* L., Sp. Pl. 2: 1101 (1753); Thunb., Fl. Jap.: 341 (1784). No. 25320.



Fig. 60. 66. Unknown species. No. 35.: *Kalopanax septemlobus* (Thunb.) Koidz. var. *magnificus* (Zabel) Hand.-Mazz.



Fig. 61. 68. Unknown species. No. 50.: *Coriaria Japonica* A. Gray



Fig. 62. 69. Unknown species. No. 75.: *Stephanandra tanakae* Franch. & Sav.

## 摘 要

勝山輝男・田中徳久・大西 亘, 2013. ツェンベリーの日本植物誌に記録された箱根産植物. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (42): 35-62. [Katsuyama, T., N. Tanaka & W. Ohnishi, 2013. The Plant of Hakone recorded in the Thunberg's Flora Japonica. *Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.)*, (42): 35-62.]

スウェーデンの植物学者ツェンベリーは1775年来日し1778年に帰国の途についた。彼は1776年に長崎から江戸への参府の途上、4月25日と5月27日に箱根を越え、多くの箱根産植物を採集した。帰国後、ツェンベリーは1784年に『Flora Japonica』を出版し、Linnaeusの近代植物分類学の体系に基づいて、日本産の植物812種と同定には至らなかった101分類群を記録した。『Flora Japonica』の箱根産植物の記録は黎明期の神奈川県植物研究史を考える上での貴重な資料である。松浦(1998)は『Flora Japonica』の記述中で箱根産と明記された64種と不明植物3分類群を抽出し報告した。しかし、松浦(1998)はツェンベリーが残した標本を直接は検討しなかった。私たちは2012年にスウェーデンのウプサラ大学博物館を訪ね、ツェンベリーコレクションを検討して、箱根産植物49種の標本を確認し写真を撮影した。また、不明植物の中からカナウツギを発見した。シバヤナギとカナウツギの2種はその分布とツェンベリーの旅程から考えて、箱根で採集されたものと考えられる。私たちはシバヤナギとカナウツギの2種を加えた70分類群を箱根産植物としてとりあげ、松浦(1998)の示した67種のうち13種について現在使われている種名を改めた。

(受付2012年10月23日; 受理2012年12月11日)